

たきいNOW



たきいNOWとは?

たきいNOWは、地域の皆様に滝井病院の「いま」をお伝えし、当院が提供する医療へのご理解を深めていただくことを主旨として発行しております。

コンテンツ

- ♣ 平成27年は夜明け前
- ♣ 血液腫瘍内科開設について
- ♣ プレストセンター開設について
- ♣ 健康科学センターについて
- ♣ 新滝井病院リニューアル状況
- ♣ 大日方面行き無料送迎バスの運行がスタート!

2016年新本館オープン



平成27年は夜明け前



関西医科大学附属滝井病院 病院長 岩坂 壽二

平成26年は関西医科大学附属滝井病院が新設したプレストセンター、結石治療センター、無菌室2室を完備した血液腫瘍内科は十分に機能したと自負しています。それでも施設・対応などに対する登録医の先生方、患者さんからは少なからず修正しなければならない諸点をいただきありがとうございました。待ち時間の短縮、ご紹介に対するご報告の遅れなど努力しなければならない事柄は残っています。

平成26年の主なる統計を示します。医師数168名、看護師数539名、その他医療スタッフ150名、事務系職員183名です。外来患者数は平均1,300人/日、入院患者数は平均450人/日(病床稼働率91%)、平均在院日数13.3日、手術件数6,800件/年でした。

本年前半には呼吸器外科診療教授を迎え、増加している肺がんの外科治療を開始する予定です。化学療法センターの充実も図ります。救命救急センターも救急患者さんが著増していますが、さらなる全科の強力な協力体制とICUを3.5倍増とした大改装の第一段階をスタートさせます。

平成28年5月のオープンに向けて、リニューアル計画の中心である新本館の建築は、地下部分の建設が予定通り進んでいます。1,2階の外来棟は陽光溢れるレストラン、美容室を備え、プライバシーを確保した診療室、検査室、患者さんの負担軽減につながる院内処方の整備を目指します。また、ハイブリッド手術室、GICU、CCU、ICU、屋上庭園がやさしく迎える産婦人科病棟、医療機器の選定、病院運営組織の充実を企画しています。

来年の新本館開院を控えて、全職員は日の出前の静寂さと冷気を緊張感に変えて、安心と安全を確保した医療の精度を上げて行く決意です。皆様の更なる応援とご意見を期待しています。

血液腫瘍内科開設について



血液腫瘍内科部長 石井 一慶 教授

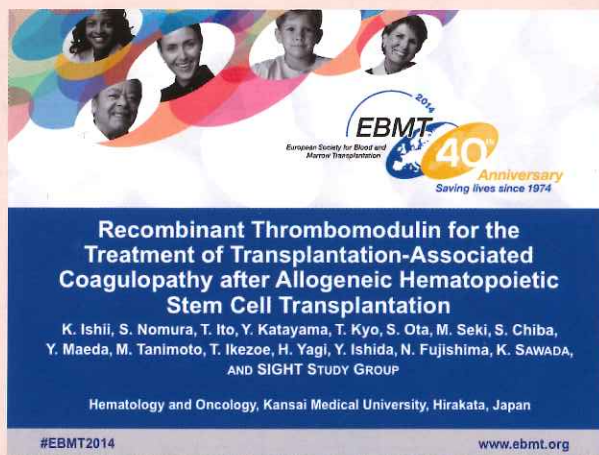
平成26年10月より滝井病院血液腫瘍内科診療教授を拝命しました石井一慶(いしい かずよし)と申します。この場をお借りしてご挨拶を申し上げます。滝井病院は枚方病院開院前から永きにわたり、地域医療を支えてきた基幹病院です。大学病院としての高度先進医療のみならず、垣根の低い市中病院としての役割も担ってきました。地域に愛されているそのカラーを今後も尊重したいと思います。また、平成28年5月には滝井病院はリニューアルとなり、更なる発展が期待されています。これら重責を担って血液腫瘍内科をここに開設できることを誠に光栄に存じます。

白血病、悪性リンパ腫など、かつて血液腫瘍は不治の病とされてきました。白血病に対する分子標的治療、悪性リンパ腫に対する抗体療法などの先進医療も年々新薬が登場し充実しています。また、細胞療法の代表である同種骨髄移植は実に40年もの歴史があり、既に確立した治療法です。さらに、移植方法の発展により高齢者、臓器障害を有した患者さんでも可能(ミニ移植)となっており、支持療法(感染症、免疫抑制剤などの合併症治療)の発展により治療成績も大きく向上しています。もはや、血液腫瘍を含めた血液疾患は治せる時代となっています。

今後ますます高齢化社会となり、それにつれて血液腫瘍も増加します。高齢を理由に治療を諦める必要はありません。私は、国内の所属学会では評議員を務め、アメリカ、ヨーロッパの血液学会、骨髄移植学会のメンバーでもあります。国際的知見を含めたガイドラインに精通しています。これまで10年間での担当入院患者は1,500人を超え、豊富な臨床経験もあります。地域の皆様のお役に立ちたいと真摯に思います。何卒、宜しくお願い申し上げます。

【略歴】

- 平成元年3月 高知医科大学医学部医学科 卒業
- 平成5年10月 世界保健機構(WHO)西太平洋地域事務局 インターン
- 平成7年4月 米国ロックフェラー大学医科ウイルス学講座 リサーチ・フェロー
- 平成10年5月 天理よろづ相談所病院血液内科 医員
- 平成13年3月 関西医科大学附属滝井病院内科学第一講座 助手
- 平成14年1月 市立岸和田市民病院血液内科 医長
- 平成22年4月 市立岸和田市民病院血液内科 部長
- 平成24年4月 関西医科大学内科学第一講座 講師
- 平成25年8月 関西医科大学内科学第一講座 准教授
- 平成26年10月 関西医科大学附属滝井病院 血液腫瘍内科診療部長・教授



第40回ヨーロッパ血液骨髄移植学会にて講演発表(イタリア、ミラノ、2014年4月)

【資格】

日本内科学会近畿支部評議員・総合内科専門医・認定医、日本血液学会評議員・近畿血液学評議員・指導医・専門医、日本造血細胞移植学会評議員・造血細胞移植認定医、近畿輸血細胞治療学会評議員・日本輸血細胞治療学会認定医、日本サイトメトリー学会評議員、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医、日本感染症学会ICD、日本医師会産業医、日本骨髄バンク調整医師、アメリカ血液学会国際会員、アメリカ血液骨髄移植学会会員、ヨーロッパ血液学会会員、ヨーロッパ血液骨髄移植学会会員

ブレストセンター開設について



センター長
乳腺外科教授 **山本 大悟**



副センター長
形成外科助教 **田中 義人**

ブレストセンターとは

ブレストセンターは乳がんの適確かつ正確な診断と女性に優しい乳がんの治療を目指します。ブレストセンターでは乳腺外科・形成外科医・放射線科・看護師などの専門医療スタッフにより患者さんを中心とした集学的医療を実施し、大学附属の施設として診療連携を円滑に行います。そして従来にない垣根を越えた診療を行うことによって、より良い医療めざすだけでなく、待ち時間も短縮し、患者さんの負担を軽減します。

具体的には

1. 最新の機器を用いた乳がん検診および乳がんの診断

リアル3Dマンモグラフィ、エコー、CT、高分解能MRIを用いた乳がんの診断

2. 新しい乳がんの診断法と治療法の開発と応用

- 外来化学療法センターでの治験を含めた最新治療
- 乳がんの新しい局所治療

とくに子育てや働き盛りの40代女性に多い乳がんですが、一般的に「乳房温存手術」によりがん部分を摘出した後は、25回通院し、放射線治療を受けます。近年、通院日数の負担を軽減するために、1回あたりの放射線量を増やして、3～5日で治療を終える[加速乳房部分照射法=APBI]という方法があります。APBI法は、手術と同時に術後にチューブを、切り取った患部近くに留置し、この中にイリジウムという放射線源を通し、移動させながら部分照射する方法です。1回6-7グレイを1日2回 各10分ほどですみ3日で照射は終わります。医療保険対象ですが、臨床試験として行う予定です。

3. 乳房再建(自家移植・インプラント)

当センターの最大の強みは形成外科と乳腺外科と緊密に連絡を取り合い、それぞれの患者さんに最適な手術を選択することができる点です。現在乳がん治療は“オンコプラスチック”が重要と言われております。これは“オンコロジー(腫瘍学)”と“プラスチック(整容性)”を両立させる、という概念です。以前のように、乳がんをとった後は形成外科におまかせ、ではこれを実現することはできません。どれだけ組織を切除するのか、再建方法によって切開線の長さや位置をどうするのか、など詳細な打ち合わせがなければ良い乳房再建はできません。さらに患者さんの背景や、希望する術式等を含めて最終的な術式、再建方法を決定していきます。常に患者さんの希望にできるだけ沿った再建を心がけております。



乳房再建の術式は大きく2つに分けることができます。一つは人工物(乳房インプラント)による再建です。もう一つは自分の皮膚や脂肪や筋肉(自家組織)を用いて再建する方法です。もちろん両者には長所、短所があります。

この両者の特徴を説明いたします。

前者は腐ることがなく、大きさも自由自在です。ただし、感染が生じたり、破損してしまうと取り出さなければなりません。また、再建した乳房の形は基本的にお椀形になるため、もともと下垂の程度が強い乳房の再建にはこれだけでは対称性は得られません。そして最大のデメリットは、血が通っていないので手術していない乳房と比較すると冷たい乳房となり、多かれ少なかれ異物感が残存します。メンテナンスのため、10年～20年の間にはインプラントの入れ替えが必要となることも特筆すべきことです。

一方、自家組織で再建すると、温かみのある自然な形態の乳房が作成できることが可能です。ただし、採取できる組織量には限界があるため、ボリュームが足りない場合があります。また、組織採取部にはそれなりの傷がついてしまいます。そして最大のデメリットは、血流が途絶すると、組織が腐ってしまうことです。これは傷が残ってしまうだけでなく、乳房の膨らみが出せず、平坦な胸になってしまいます。ただし、一旦乳房が完成すれば、メンテナンスは基本的には必要なく、異物感等も殆ど無いため、手術がうまくいけばインプラントよりも高い満足感が得られます。もちろん、いずれの術式も現在保険適用ですが、3点注意が必要です。まず第1に、乳房インプラントで再建する場合、手術を行う施設が乳房インプラントを使用することができる認定施設であることが絶対条件です。

これは日本乳房オンコプラステック学会のホームページで確認することが可能です。

<http://jopbs.umin.jp/shisetsu.html>

第2に、乳房インプラントで再建すると、基本的にお椀型になります。

これに合わせるために、反対側の乳房に豊胸や、乳房固定術といった下垂を修正する手術が必要な場合、これらの手術は保険適応外であり、自費になります。

第3に、自家組織再建は基本的には形成外科の手技の延長上にありますが、通常の再建手術と異なり整容面が非常に重要となりますので、それなりの症例経験数が必要です。ですから、形成外科があるからといってどの施設でもできるわけではありません。

再建材料によるメリットとデメリットについてまとめてみます。

	乳房インプラント	自家組織
長所	他部位に傷がつかない 大きさは自由度が高い	自然な形態(下垂)で再建できる 完成すればメンテナンスが不要
短所	感染、破損する可能性 オーダーメイドではない 下垂乳房は作れない メンテナンスが必要	採取部に傷が残る 大きさによっては作れない 術式によっては煩雑 (施設によってはできないことも)

入院期間につきましては、乳腺外科手術と同時に乳房再建を行う一次一期乳房再建では、乳房インプラントで7～10日間、自家組織再建では12～14日間としております。自家組織再建は創部の安静を考えての期間です。どうしても退院をしなければならない方は相談に応じます。

施設によっては両方できるところ、一つの方法のみを得意とするところなど、様々です。私の考えでは、それぞれ一長一短ありますので、患者さんのニーズや、乳房の形態を考慮して使い分ければ、最も良い結果が得られるのではないかと考えております。また、当院では乳房温存手術後の変形に対する乳房再建も行っております。

多くの場合、背部の脂肪と皮膚を用いるTAP flap、もしくは広背筋皮弁での再建となります。乳房変形に悩んでおられる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。このように、最先端の検査と治療を行い、EBMと個別化治療を念頭に置き、特に乳がんの治療においては、QOL(生活の質)を損なわず、治療成績を向上させることは重要な課題です。そのためには手術療法、放射線療法、薬物療法をひとりひとりの患者さんの状況に則して適切に行うことが重要です。とくに手術療法に対して患者さんご自身が高い満足度を得るためには術後の乳房の整容性が極めて重要であると思われれます。乳腺外科と形成外科との密接な協力により、乳房切除となるケースでは一期的に質の高い乳房再建術が可能となっております。プレストセンターの今後の取り組みと挑戦に、どうぞご注目ください。

●「運動」ってどんなイメージですか？

患者さんに「運動」イメージを尋ねると、「めんどくさいねん」「運動をせなあかんけど気分がのらへん」「しんどいことはしたくないねん…」などのご意見を耳にすることがあります。「効果のある運動」＝「きつい運動」なののでしょうか？最も大事なことは「強度」です。きつすぎる運動や優しすぎる運動は、共に「効果のある運動」ではありません。

●「効果のある運動」ってどんな運動でしょうか？

体力や疾患内容等は個々によって違います。当センターでは、個々にあった効果のある運動を薬と同様な考えで“処方”するために、心肺運動負荷試験（以下CPX）を施行致します。この検査（図1参照）を行い、体力評価や個々にあった運動強度を算出するとともに、負荷により血圧上昇異常や心疾患等の異常を確認し、その結果を元に運動プログラム（＝処方箋）（図2参照）を作成致します。



《図1》



《図2》

●健康科学センターは何をしているの？

健康科学センターは、狭心症や心筋梗塞などの心臓疾患の二次予防を行う心臓リハビリ施設であり、また生活習慣病（糖尿病や脂質異常症、高血圧、肥満など）に対しての一次予防や二次予防を目的に行う運動療法施設です。検査結果を元に作成した運動プログラムを元に、自転車エルゴメーターやトレッドミル使用しての有酸素運動、自重やダンベル、チューブを使用しての筋力トレーニングを行うのが基本プログラムです。

健康科学センターでは、健康運動指導士（心臓リハビリ指導士資格取得）や看護師が在籍しており、一次予防や二次予防に向けての目標をたて、一緒に目標達成できるようにサポートさせていただきます。



●ご興味のある方は、主治医の先生にご相談、もしくは健康科学センターにご連絡下さい。TEL:06-6993-9561

新滝井病院リニューアル状況

昨年8月より地階部分の掘削工事を行ってきましたが、現在は地上面より約8m掘り下げた底に鉄筋を組み、コンクリートを打設する基礎躯体工事を行っております。

周辺にお住まいの皆様や周辺道路をご通行の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしておりますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。



●平成26年12月20日 新本館定点写真



●平成26年11月20日 基礎配筋

大日方面行き患者さん送迎用無料巡回バスの運行がスタート!

平成26年10月1日より、患者送迎用無料巡回バス1号車が大日までの路線延長を行い、大日方面と太子橋方面の2コースの運行となりました。順路は、
大日方面行きが、滝井病院北館前→サンマーク大日レジデンス前→滝井病院北館前となり、
太子橋方面行きは、滝井病院北館前→大阪市営太子橋今市駐輪場→セブンイレブン守口京阪本通店→滝井病院北館前となっております。当院に来院の際は是非ご利用下さい。

サンマークだいにち 停留所の詳細図



■道路状況により、①②いずれかの駐車場所となります。

大日方面行きバス時刻表<発車時刻>

関西医大滝井病院 北館玄関前			サンマーク大日レジデンス前		
8	05	55	8	25	
9	45		9	15	
10	35		10	05	55
11	25		11	45	
12	15		12	35	
13	05	55	13	25	
14	45		14	15	
15	35		15	05	55



太子橋方面行きバス時刻表<発車時刻>

① 関西医大滝井病院 北館玄関前			② 大阪市営太子橋今市駐輪場前			③ セブンイレブン守口京阪本通店		
7	50		7	55		7		
8	40		8	45		8	00	50
9			9			9		
10	20		10	25		10	30	
11	10		11	15		11	20	
12	00	50	12	05	55	12	10	
13	40		13	45		13	00	50
14			14			14		
15	20		15	25		15	30	
16	10		16	15		16	20	

●無料でご利用いただけます。●休診日は運行していません。●停留所以外での乗降はできません。●道路事情によりバスの到着が遅れることがあります。●車イスをご利用での乗車はできません。●土曜日は滝井病院北館玄関前、大日方面行き12時15分発、太子橋方面行き12時50分発が最終の運行となります。



関西医科大学附属滝井病院

〒570-8507 大阪府守口市文園町10番15号
 TEL.06-6992-1001(代)
 HP <http://www.kmu.ac.jp/takii>